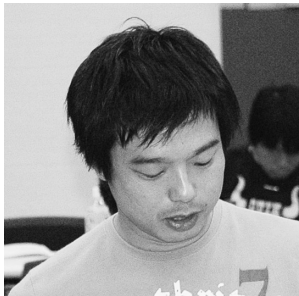


いのかなども含めて対応をする。

不燃センターの関係は、

う。これからも一組総支を東京清掃としてバックアップするなかで、一組担当





●葛飾支部

安全が確保されないのであれば危険手当を

鈴木代議員

自分は区採用であり、そういう意味では低賃金で働いている。国の勧告は月例給の引き下げであり、区でも追隨する勧告がされれば、さらなる賃下げに繋がる。さらに攻撃が強まって



第80回定期大会

を追究したい。容り法が3年後には改正されるなかで、拡大生産者責任の明確化をさせなければならぬ。メーカー側に対する対応、利益との関わりがあるが、組合としてもしっかりと対応していきたい。労働災害の関係では、アウトソーシングに関わり、委託先の労働者が劣悪な労働条件・勤務条件で働かされるなかで、ご存知のように悲惨な事故が起きてしまった。組合員でないとしても、同じ職場で働く仲間として、携われる部分は連帯して協力をしていき、お互いに意見交換をし、交流を

深めていきたい。もちろん必要があれば、本部三役も一緒に入っていく。

青年部は、人数が減少するなかだが、大会を目前に控え、それ以降、新体制で運動をしていくことである。青年部員を増やすには、新規採用しかない、要請行動等で声をぶつけていくとの意思表明もあったので、是非各区交渉の後押しをお願いする。また、基本組織に対しては遠慮なく意見を言っていたきたい。

若い人の意見が組織の活性化に繋がるし、本部としても各区の新規採用の獲得に向けて全力で努力する。

●本部答弁

花島代議員

方針のなかには、とりわけスピードをあげてやらなければならぬ課題もある。車付雇上や過半数条項のことなど、本部として十分

●北支部

花島代議員

くるであろうが、たとえ数百円でもさせるべきではない。一昨年勝ち取った、給料表への切り替えについて、区採用の自分には影響がない。当局が国に追従するのであれば、公務員宿舍の建設など、福利厚生の実も同様にさせるべきだと思う。そうした一方で、清掃工

車付雇上や過半数条項など早急な対応を

事業執行統一交渉について、若い方もいるのでさかのぼってお話する。移管当時、11項目の統一交渉項目があったが、区長会は一方的にこれを拒否し、すべて各区交渉で決めるとしてきた。我々の労働条件の根幹であり、組織の生命線である事項だから、3年にわたる都労委闘争を闘い、最終的には07年の賃金確定闘争において、中継所職員の身分の取扱い1項目のみとは言え、あらためて統一交渉を確立することができた。

●本部答弁

方針に肉付けをした運動作りを各支部で

業の特殊性・困難性を踏まえ、措置させた。本部としても、区採用の組合員の賃金上がるよう、専門委員会交渉のなかでもやりとりをしているので、ご理解を。方針のなかで、政策委員会の設置を入れてあるが、それも財政の裏づけがないとできない。また、本部も

西川委員長

方針に肉付けをした運動作りを各支部で

「と逃げる。全都清加盟の632団体5年毎に見直される。委員

2012年度会計予算(案)に対する質疑応答

●北支部

花島代議員

財政が厳しいと理解しているが暫定予算は

交付金については第二次組織財政方針討議の結論を踏まえ、となっている。額がそのまま予算化され、暫

定予算が本予算になったら、今後の取扱いについて、おかしい。また、極めて格差のある交付金であり、格

●本部答弁

染書記長

一組総支部の運動は東京清掃の要的な位置

組合員数で見ると格差があるように見えるが、逆に組合員数が少ない支部に交付しない運動が立ち行かない。例えば、一組総支部に交付が多いと言われるが、清掃事業の劣化ということ

公務災害・労働災害については、災害を発生させない取り組みが基本



激励を頂いた来賓の方々①



激励を頂いた来賓の方々②

●本部答弁

大和田財政部長

同額で予算を組んでいるが確立していない

一言申し上げるが、同額のものではない。あとは代議で予算を組んであるが、具長からお答えいただきたい。

のなかでは、最大で32分別を行ってるところもある。一方の東京23区では、容リプー回収すら行っていない区が半数。区民と事業者にお願いして、きちんと分別してもらっている区の清掃工場に、となりの区の何でもありのこみが搬入されている矛盾がある。地球環境を守る意味からも、我々23区を束ねる組合として、統一した分別とさせることを当局に対し追求していく。容器包装リサイクル法は5年毎に見直される。委員

公務災害、労働災害については、災害を発生させない取り組みが基本。しかし、石原都清の下で基金が反動

はあくまでも基本である。是非、各支部のなかで肉付けをした運動作りをお願いしたい。

から、水銀等の不適正搬入等への対応もあるし、そう思った意味からは、一組総支部の運動は東京清掃の要的な位置付けとも言えるを踏まえて検討していく。

脱原発、自然エネルギー中心の社会を実現する決議

今年3月11日に起こった東日本大震災によって福島第一原発事故は1～4号機は破損し、また津波によって非常用電源が喪失し、冷却機能が失われ、つぎつぎとメルトダウンと水素爆発を引き起こし、多量の放射性物質が放出し、広範囲に飛散するという原発史上最悪の大惨事が発生した。それにともなって十万人に近い数の住民が、生まれ育った故郷と住み慣れた家を後にしている。また残った住民、とりわけ子どもたちは放射能被ばくの恐怖の中の生活を強いられている。

さらに福島第一原発周辺だけでなく、高濃度の放射性物質による汚染は関東地方の広域に及ぶことが明らかになった。都内においては下水の汚泥処理施設や清掃工場の焼却灰などから、高濃度の放射性物質が検出されている。とりわけ江戸川清掃工場においては7月に飛灰から9,740Bq/kgという高濃度の放射性セシウムが測定され、工場内の灰バンカーに一時保管される処置がされた。

残念ながら福島第一原発事故は今もなお収束の見通しが立たず、人間と自然への放射能汚染を拡大し続けている。

当初「想定外」として責任転嫁した東京電力であったが、一定の想定をしていたことが徐々に明らかになり、地震、津波の対策を怠ってきたことが明白となった。また東電等の隠蔽体質が事故後の対応の不手際をもたらした。原発の安全神話を無責任に吹聴してきたのは電力会社の経営者、政府だけでなく御用学者、マスコミが大きく担ってことが国民の前に明らかになった。さらには電力総連等が経営者と一体となり原発推進の旗を振ってきた事実を、我々は労働組合として直視していかなければならない。また都会の電力需要のために過疎地に原発立地を押しつけられる都市と地方の格差。被ばくにさらされている労働者実態等、今回の原発事故は内包していた多くの問題が顕在化した。

取り返しのつかない今回の原発事故は膨大なリスクを人類と地球にもたらし、今後も放射能汚染は拡大していく可能性が強いといわれている。人類は放射能と共存できないことが明白となった。

わが組合は従前から「脱原発」を方針化しているが、この福島第一原発事故を契機により広範に、粘り強く取り組む決意である。

新規の原発計画中止、既存の原発の廃炉、プルトニウムを利用する「もんじゅ」と青森六ヶ所村などの再処理施設の廃棄を強く求め、また我々は省エネルギー・自然エネルギーを基本としたエネルギー政策を求め「持続可能な平和な社会」を実現しなければならない。

以上、決議する

2011年10月16日

東京清掃労働組合第80回定期大会

大会宣言

私たちはここに第80回定期大会を開き、真摯な総括と方針討議をもとに「2012年度運動方針」を決定した。

2000年の清掃事業の区移管以降、各区、一組では合理化が加速する一方で清掃事業の公共性が疎かにされてきた。退職不補充方針のもと、「指導」のみを直営とし現場作業を切り離す車付雇上が拡大している。公共性を無視した合理化の矛盾は現場で起きている。拡大する非正規労働者は劣悪な労働条件で働かれ、清掃工場では下請け労働者の悲惨な死亡事故も発生している。現場を切り捨てた清掃事業は荒廃の一途をたどることは明白である。各区・一組当局は責任を持って安定的かつ安心・安全な清掃事業の運営を図るべきである。

9月30日、人事院は東日本大震災の影響により遅れていた国家公務員の月例給の改定を勧告した。国家公務員給与の取扱いについては5月の労使交渉で合意した「臨時特例法」がすでに国会に提出されており、人事院勧告そのものの扱いが大きな争点となる。特別区は、国とは全く条件が違う。国に同調するような給与減額はあってはならない。11賃金確定闘争は、大都市東京で清掃事業に従事する労働者として、「清掃の特殊性・困難性を考慮し職場実態を踏まえた人事・給与制度」を求め、要求実現に向けて賃金確定闘争を支部、地連の職場闘争を基軸に全力で闘い抜くものである。

東日本大震災による福島第一原発の事故は、原発史上最悪の大惨事となった。放射性物質の汚染は広域に及び、清掃工場の飛灰からも高濃度の放射性セシウムが検出された。いまだに多くの住民が放射性被ばくの恐怖に怯えながら、避難所などでの不自由な生活を強いられている。福島第一原発の復旧作業にあたる非正規労働者の被ばくも明らかになっている。原子力の安全利用、原発の安全神話は完全に崩壊した。原発依存の電力政策を改め、脱原発のエネルギー政策への転換を図るべきである。

特別区職員研修所による清掃研修において講師による問題発言が相次いで発生した。東京清掃、部落開放同盟、研修所、担当講師による確認会を開催して、事実確認をし、謝罪を求めた。研修の講師は23区の清掃課の課長級が担当している。現場の管理職が公共の事業としての清掃事業の歴史や移管の経緯を全く踏まえず、差別的な発言をすることは到底許されることではない。中野区、練馬区では、ごみ袋差別落書き事件も起きている。23区当局の清掃事業に対する姿勢を追及するとともに、あらゆる差別をなくす闘いを強化するものである。

2008年6月に成立した国家公務員制度改革基本法に基づき、本年6月に国家公務員制度改革関連4法案が国会に提出された。国家公務員法改正により地方公務員法も改正されることになる。わが組合は現業職員の組合として地公労法が適用され団結権・交渉権を有し、23区を貫く単一の労働組合として、区長会と「勤務条件関連」及び「清掃事業関連」の統一交渉を行っている。公務員制度改革によって現行法による権利を後退させてはならない。

意図的な公務員攻撃や現業切捨ての世論に屈することなく、本大会で確認された方針を基に、労働組合としての自主性や自立性を確固たるものとし、単一の労働組合として東京清掃労働組合は力強く運動を進め、組織を確立するものである。

以上、大会の名において宣言する。

2011年10月16日

東京清掃労働組合第80回定期大会

● 退任役員挨拶

● 中央執行委員長

西川卓吾

一番迷惑をかけた支部の仲間の皆さんに改めて感謝

ができました。

その後、49歳で本部に出ることになりました。今年60歳になりますから、11年間になります。共闘部副部長を1年、組織部長を1期、副委員長を1期、そして委員長を5年の専従期間を含め3期6年間、本当に各支部の皆さん方、あるいは本部に支えられながら、全うすることができました。全組合員にお礼を言わなければなりません、一番迷惑をかけたのは支部の仲間かなと思います。あらためて



退任役員、長い間お疲れ様でした

● 組織部副部長

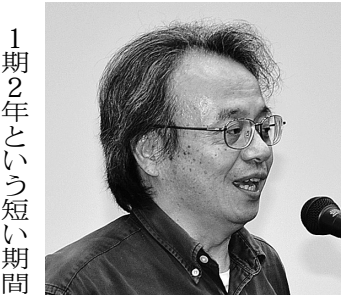
川内谷昭彦

● 中央執行委員

細貝秀夫

● 会計監事

高橋 亮



1期2年という短い期間

感謝をしなければいけません。先ほど確認いただいたように、引き続き特別執行委員として、東京清掃はもちろんです。2万2千の組織である都市清掃議長の任期が来ようとしています。全国がとうございました。の清掃労働者の生活向上に向けて、北海道から九州、沖縄まで全国を駆け回り、残された期間を全力でがんばっていきたいと思います。至らない委員長を支えていただいて、本当にありがとうございます。

● 中央執行委員

駒井貞雄

中央執行委員として大変貴重な経験を

でしたが、中央執行委員としてたいへん貴重な経験をさせていただきました。今後の支部の活動に経験を活かしていきたいと思えます。どうもありがとうございました。

第80回定期大会 ご来賓

自治労東京都本部
都市清掃労働組合協議会
都市清掃労働組合協議会
自治労現業評議会清掃部会
自治労現業評議会清掃部会
自治労現業評議会清掃部会
特別区職員労働組合連合会
全国労働組合連絡協議会
退職者会
退職者会
退職者会
株式会社広報ブレイス 営業部課長補佐

池谷委員長
今井副議長
蓼沼副議長
山下部会長
宮本事務局長
佐藤書記長
中岡事務局長
鈴木副会長
戸枝会計
矢吹芳郎

自分が退任の挨拶をするというのは、なんだか一抹の寂しさ、ある意味ではほっとした気持ちとがあります。あらためて、自分の労働運動の経歴を振り返ってみたのですが、いかに職場、現場に携わっていなかったのかと思います。1972年に入都したのですが、その時は青年部運動が3年間凍結されていました。75年に再建され、その3年後から青年部長を4年努めさせていただきました。そして、青年部が終わると同時に、旧東部地連の事務局長を7年間さらに、組織再編による立ち上げも含めて第五地連の事務局長を11年間努めさせていただきました。当時の地連は、いわば各支部の親分連中が集まるなかで、31歳と一番若い私が女房役の事務局長になり、がんばれよとの励ましや厳しい指導を受けながら、なんとか努めること

●新任役員挨拶

全組合員のみなさん！新執行部をよろしくお願い致します。

●中央執行委員長(練馬)

少しでも前でバトンを受け渡せるよう

吉田 寿



たいへんお疲れ様です。一日の大会、ご苦労様でした。ご紹介いただきました、東京清掃労働組合の委員長に任じさせていただきます。まず、吉田といいます。練馬支部です。今後ともよろしくお願いしたいと思います。先ほど、西川前委員長から、この間のご自分の経歴を含めてお話がありました。委員長を3期6年、完

願いたいと思います。その力に支えられながら、37名の執行部が一丸となって、皆さんの先頭に立って取り組み、運動を前進させていきたいと思っています。この間、諸先輩方が築いてこられた東京清掃労働組合の歯車を逆戻りさせることなく、少しでも前に動いた形でバトンを受け渡せるよう、努力をしていきたいと思っています。それには、皆さんの支えの下に、東京清掃の組合員の総力の下に、バトンを動かしていくしかありません。是非とも皆さんの力をお願いしたいと思っています。そのうえで、執行部一丸となって、先頭に立つてがんばっていくということを申し上げます。簡単ですが、よろしくお願い致します。

委員長を務めさせていただいた。あたったの挨拶とさせていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。

山崎 努

制度改革を受け、我々本部も学習会を設置して皆さんと共に学んでいきたいと考えていますので、引き続きよろしく申し上げます。

中央執行委員(江東工場)

内山 健司



出戻りですが、久しぶりの中執ですので、責任感と初心を忘れずにがんばりたいと思います。よろしく申し上げます。

●中央執行委員(港)

石田 貴英

何をやるのか良くわかっていませんが、この場に立つことになりました。よろしく申し上げます。

●組織部長

坂本 浩明

●賃金部長

野崎 優二

●中央執行委員(江戸川)

多田 修一郎

中執として、今後何とかがんばってまいりますので、皆さんの協力をお願いします。

●共闘部長

松本 稔

●現業部長

森田 裕二

●中央執行委員(墨田)

遠田 寛樹

小さい墨田支部から、3人目の中執になりました。一生懸命がんばりますので、よろしくお願いします。

●書記長

染 裕之

●副中央執行委員長

大和田 功治

●書記次長

桐田 達也

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

あらためて責任の重さを実感していますが、精一杯取り組みさせていただきますので、よろしくお願いします。

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗

●教育宣伝部長(墨田)

斉藤 幸司

●中央執行委員(多摩川工場)

西村 好勝

●副中央執行委員長

山崎 英美

●副中央執行委員長

瀬瀬 朗